



コミセン大掃除



6月30日、利用者の皆さんと大掃除を行いました。普段手の届かないところまでピッカピカになりました。ご協力に感謝いたします。

来た時よりも美しく



第8回三原市民 グラウンドゴルフ大会



エイ！！
入れ、バーディー



ちょっと左に曲がるわね



7月14日、三原運動公園で開催され、糸崎・木原チームは男女とも全17チーム中13位でした。大変暑い中、選手の皆さんお疲れさまでした。

◇体験教室開催のお知らせ◇ 気軽にオカリナを楽しむ会

一緒にオカリナを 楽しみませんか



日時：8月24日(土)
13:30~15:00
定員：20名
受講料：100円
講師：松浦 益美さん
申込期間：8月1日(月)~8月23日(金)
問合せ：糸崎コミセン 62-6799

第8回糸崎コミセン祭り

平成25年11月24日(日)に決定

祭

* 出演・出展を募集します

* 詳しくはコミセンへ問合せ下さい

江戸っ子の 心意気



(ニューモラル五二七号より)

江戸の町での人間としての評価は、午後の「はた(傍)を楽にする」働きで決まったといえます。そこには「どれだけ他の人のために思いをめぐらせたか」に価値を置く社会があったといえるでしょう。狭い町の中で大勢の人たちと共に暮らすとき、周囲に無関心なままでは円滑な社会生活は営めません。そして人のために働くことは、周囲と温かい心の絆を結ぶことにも役立ち、自分の暮らす地域を安心して住みよいものにして、めぐりめぐって自分の喜びも形づくっていくのでしょ。

職種による違いはあったようですが、江戸の町での一日は、まず朝飯前の「働き」から始まったといわれます。向こう三軒両隣に声をかけながら近所を歩き、何か困ったことはないかと見て回るのです。その後、朝食を済ませると、生活の糧を得るために仕事をします。しかし、その仕事も昼までです。午後に江戸の町の人々がしたことは、それは自分の生活のための仕事ではなく、近所の人々のため、町のため、つまり「はた(傍)を楽にする」ために働くことでした。例えば朝飯前に歩いて気づいた地域の困りごとを解決するために、一役買って出るなど「傍楽(はたらく)」に多くの時間を割いていたのです。

江戸の暮らしから「気働き」

道徳の「コラム」